

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社介護社		
事業所名	グループホーム助一みのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市森山町5丁目23番3号		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171200393-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171200393-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内では春は桜、秋は紅葉など木々や花々を目で見えて楽しむ事ができます。リハビリを兼ね畑周りの散歩をしながら季節の野菜が育つのを楽しみ、収穫した野菜は日々の食卓に並びます。ベンチで日光浴やおやつを食べたり、また冬の時期には玄関のソファで日向ぼっこをしながら利用者同士の会話も弾みます。施設行事では運動会や秋祭りなどスタッフも一緒に参加して盛り上がり、楽しく活気のある生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の畑で収穫した野菜や利用者家族からの差し入れなどを活用しながら、三食手作りの食事やおやつを提供している。花見や運動会等の行事の際には弁当を準備したり、干し柿作りを楽しむなど、昔からの習慣や好みを聞きながら、利用者が楽しみながら暮らせる支援に取り組んでいる。ユニットリーダーや居室担当制の利用者ケアを導入するなどで業務改善を図り、職場環境の充実や利用者支援の質の向上につなげている。職員の休暇や勤務時間の希望等については柔軟に対応し、資格取得の為に研修受講を奨励し受講料の支援などを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	助一の理念として「いつでも、どこでも、だれでも」を基に毎日の生活の中で常に対応できるように心掛けている。勉強会では居室担当を中心に個々の対応についての話し合いを行っている。	職員は年度末に1年を振り返り、次年度の目標を立てている。理念と共に掲示し、共通意識をもって実践に繋げている。勉強会では、居室担当が中心となり、利用者の事例検討を行い、理念を再確認しながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより地域とのつながりが難しくなっており、その中でも小学校からのメッセージ入りゲームなどが届けられ利用者に楽しんでもらっている。お礼に写真と利用者からのメッセージカードを作成して気持ちを伝え交流している	コロナ禍で、自治会等との交流機会は少ないが、地域の小学校や学童保育の子ども達から、メッセージや正月の手作り絵馬が届き、利用者がお礼のメッセージカードを送るなどの交流がある。今後は、地域に向けての広報活動を進めていくことを検討している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は中止することなく会議を開催する事が出来、他施設などの情報や行政・包括から意見を頂き、それを基にサービスの向上へとつなげている。	運営推進会議を開催し、市の福祉課、包括支援センター、長寿支援センター、地域住民、家族代表等が参加し、意見交換を行っている。コロナ禍前は花火・秋祭り等、家族会を兼ね食事しながら交流の機会を設けていた。来年には状況を見ながら再開を考えている。	地域住民に事業所の認知度を高め、交流を図れるよう、民生委員にも会議の構成員としての参加を依頼するなど、地域密着型利用者サービスの向上につなげる工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の入所状況の実情を会議などを通して伝えたり相談などを行っている。また行政から最新の保険情報や地域の情報を聞き、事業所の運営に役立てている。困っている事の相談等もしており常に連携を取っている	市の福祉課、地域包括支援センター等とは、運営推進会議への参加や電話等で、報告や連絡を密に取り、介護保険、各種制度、地域等の情報を得たり、意見交換を行いながら協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会を通して学び職員が日頃より身体拘束をしないよう心掛けている。玄関はお天気のいい日など時々開放している。	毎月の職員会議や、3か月毎の身体拘束防止委員会で、事例検討会を行っている。各居室担当者とユニットリーダーを中心に、利用者の状況や課題点を話し合いながら、対応方法を見直すなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会で学び話し合いをしている。チェックシートを活用し職員のストレスや介助の仕方を見だし環境改善からの個々にあったより良いケアを心掛けている	虐待の芽チェックリストや虐待防止セルフチェックリストを活用し、年2回の勉強会を行いながら課題と対策を検討している。管理者は職員との面談機会を設け、ケアの振り返りを行いながらストレス緩和への配慮に努め、不適切ケア・虐待をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束や虐待防止、ヒヤリハット・事故防止について取り組んでいる。今後も、利用者一人ひとりの状態と、予測される利用者の行動等について話し合いながら、対応や支援方法の検討に期待したい。

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を活用している利用者もあり、その制度について資料などから勉強会で学ぶ機会を作っている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には一つ一つの項目において解りやすく十分に説明をおこない、不安な事や疑問などを聞きながら理解と納得を得られるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見などには訪問時や電話連絡などの際に確認し意見交換を行っている。隔月の家族通信では施設の行事やその時々利用者の写真を貼り状況などを伝えている。	感染予防の為、家族との面会は玄関先や庭での対面となっている。面会時に家族の意見や要望を聴き、遠方の家族とは電話で対応している。隔月に家族に発送する通信には、事業所の状況報告、利用者の様子が分かる写真や本人の手書きメッセージも添えている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個々の面談により意見や考えを聞くよう努めている。また普段から話しやすい働きやすい環境作りを心掛けている。	施設長と職員、ケアマネージャーは、日頃から相談、要望、意見が言いやすい関係を築いている。施設長やケアマネージャーが職員との面談も行っている。職員から得られた意見等は、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員1人1人に合わせた勤務体制が取れるように努めています。また管理者は職員個々の能力を評価し向上心をもって働ける環境作りに努めています	職員が向上心を持って働けるよう、担当制の導入、業務改善や学習会などを工夫している。職員休暇や勤務時間等の要望には柔軟に対応し、より働きやすい環境を整えている。職員が休憩室でゆっくり休めるよう、交代制で休憩時間を確保している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加するよう努めています。毎月の勉強会では学びたい内容を個々に出してもらいそれについて職員全体で学びます。	職員の希望する研修受講や、資格取得の為の勤務日調整や費用負担などの支援がある。毎月の勉強会では、職員のニーズに応じたテーマを設定し、グループワークや事例検討会等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や会議などを通し他事業所との交流を図っている。また専門職からの意見を頂き質の向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の声を大切にし寄り添い、話に耳を傾けます。食器拭きや洗濯物たたみなどを行うことにより支え合う関係を築く事やレクリエーションや行事を通して楽しみ共に喜びを感じています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の表情や仕草、会話の中から思いや意向を把握できるよう努めています。その人らしい暮らしの実現のため居室担当を中心にカンファレンスで話し合いをします	利用者の意見や意向、希望を聴いたり、日頃の関わりの中で気づいた事や汲み取った思いを職員間で共有し、ケアに反映させている。居室担当制を導入し、担当者が中心となって利用者の思いや意向をより詳細に把握し、良質なケアを提供している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり家族・本人の意見を確認し多方面から理解・把握する事で利用者本位の計画の実践に努めています	家族、職員、医師等の意見を反映させた介護計画を作成している。面会時には、家族と共にカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。面会が困難な家族には、電話で状況を説明し、意見や希望を得ながら計画の修正を行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのケアの実践・記録をし職員間で情報共有しています。また状況の変化に応じて都度対応し計画の見直しに活かせるよう努めています	職員は、常に介護計画や介護記録を確認し情報を共有している。利用者に変化が見られた際には、介護計画の見直しを行っている。利用者の状況の変化など、特記事項はユニットごとの申し送りノートに利用者毎に記述し情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で生じたニーズに合わせ主治医や歯科医師の往診また医療機関の受診をします。必要に応じて医療的支援・指導を受け、また家族が通院できない状況にあった場合はスタッフが変わって通院の対応をしています。	事業所外の送迎サービスの情報を提供し、利用している家族もある。地域包括支援センター等のワークショップなどへの参加や、ボランティア募集の登録などを活用している。今後も、地域との交流を進めていくことを検討している。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍より地域資源の活用は限られていたため少しずつボランティア、地域との関わりをコロナ禍前におこなっていた状況に戻していける様に努めています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について説明し家族が選択している。月2回の往診を受け都度適切な治療を行ってまいります。24時間体制での対応が可能で家族と情報共有もしています。歯科医の訪問もあり利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています	かかりつけ医と協力医については、契約時に説明し家族が選択している。通院は家族の協力を得ているが、車椅子の利用者が多くなり家族の車では難しく、職員が付き添う機会が増えている。職員の負担が課題となっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者・ケアマネが日頃より病院関係者と情報交換し利用者・家族と治療方法を話し合いながら安心して治療できる関係作りをしています。	管理者やケアマネジャーは、日頃から病院関係者と情報交換を行い良好な関係にある。入院時には介護サマリーを持参し、申し送りを行っている。病院のソーシャルワーカーと面談し、利用者の退院後の生活がスムーズに運ぶよう調整を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族に重度化・終末期の対応についての説明をし看取りを行っていない事は同意を得ている。状態の変化時には医師を含め関係者と家族で話し合い本人・家族が安心できるように努めています	利用者と家族には、契約時に重度化や終末期の対応について説明し同意を得ている。看取りケアは実施していないが、利用者の状態が変化した際は、医師等関係者と家族が話し合い希望に応じて対応し、利用者と家族が安心できるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回勉強会を通して学び利用者の既往症や内服薬の把握に努めています。またロールプレイングを用いた学びを通してマニュアルの見直しもおこなっています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の通報消火訓練に加え毎月1日に誘導訓練をおこなっています。地震、水害時の対策も話し合っており連絡、一斉メールの確認、周知徹底できるようにしています。また地域の防災訓練にも参加していきたい	年2回の避難訓練と毎月1日に誘導訓練を行っている。夜間の車椅子移動なども想定して行っている。周辺住民には協力を依頼しているが、今後、協力者の拡大をめざしている。避難場所への移動が困難な場合は、事業所内に留まる事を想定し備蓄品を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの範囲は個々によって違う為干渉してほしくない・恥ずかしいと感じる事に配慮し一人一人のプライバシーに合わせて確保できるようにしている	新人研修や接遇研修において、人格の尊重やプライバシーの保護について学び、意識を高めている。トイレ・排泄・入浴介助だけでなく、利用者が不快に思うことを把握するよう努め、職員間で共有し、利用者の尊厳を損なうことがないよう取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表現できるよう声掛けを工夫したり雰囲気作りを心掛けている。また、利用者の話に耳を傾け自己決定できる様支援しています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中でメリハリをつけながら休みたい時や独りで過ごしたい時には自由に居室へ戻れるようにしています。室内だけでなく天気の良い日には庭に出て散歩・外気浴を楽しめるようにしています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を通して季節を感じ干し柿の皮むきやほう葉寿司を作りながら昔を振り返ります。おやつレクではどら焼きなどを作って楽しんで頂けるよう努めています	事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れなどを活かし、昼・夕食とおやつを食事専任の職員が準備している。日曜と朝食は、当日勤務の職員が調理している。花見、運動会、季節の行事の際には、弁当や行事食を準備するなど、利用者の習慣や好みを支援に取り入れ、楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、嚥下の状態に合わせて軟飯・ペースト・刻み食にして対応し体調管理に努めている 体重の増減、全身状態を観察、把握し状況に応じ栄養補助食品も摂取してもらっている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時は声掛け一部介助で行い必要に応じて仕上げ磨きをしている。治療が必要な場合は歯科往診の支援も合わせて行っている。	毎食後、利用者自身で口腔ケアを行っている。うまくできない利用者には、職員が仕上げのケアを行うなど、状況に応じて支援している。利用者の口腔内の清潔保持と共に、義歯のケアも職員が行っている。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄出来る支援を行っています。声掛け、タイミングには十分配慮し成功に繋げる工夫をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーには十分配慮し入浴支援を行っています。無理強いすることなく清拭、足浴、衣類交換など都度合わせた対応を心がけています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は殆どロビーで過ごし、レク活動や体操、お手伝い等で体を動かします。天気の良い日には外へ出たりしながら、夜間よく休める支援をしています。また、体調などにより居室で休むことも取り入れています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を出す人、確認する人、服薬する時に再度声を出し確認の3段階でチェックし誤薬を防げるよう取り組みをしています。変更や臨時薬に関しては申し送りで確認・理解する様に努めています。	服薬は服薬マニュアルに沿って、2名の職員が確認し、3段階チェックを行い誤薬防止に取り組んでいる。飲み忘れがないかも確認している。薬剤に変更があった場合は、薬に目印を付けて、申し送りを行うなど、誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を大切に楽しく過ごせるように寄り添っています。柿の皮むき、編み物・雑巾縫いと昔を思い出し利用者同士の会話も弾みます。また、完成品を楽しみにさらに張り合いのあるものになるよう支援しています	利用者が、編み物や習字などの趣味を自由に行えるよう支援している。また、果実の皮むき、毎日の洗濯物たたみやお盆拭き、ごみ箱作りなど、利用者が役割を持って行えるよう、職員は、感謝の気持ちを伝え、利用者の意欲を損なわないように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で制限を強いられる中、少しずつ緩和できるよう努めています。ご家族の協力を得ながら数時間でも家に帰ってくるなどの支援をしています。	日光浴を兼ねてベンチでお茶を飲んだり、近隣の散策など、外気に触れられるよう、外出の機会を積極的に作り取り組んでいる。花見や秋祭り等の行事も徐々に再開していく予定である。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族が中心に行っており、本人からの希望の物もご家族に準備してもらっている。コロナの問題もあるが買い物に出掛ける支援も検討している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望がある時は話を聞き、家族に電話をしたり、本人の希望にできる限り添えるよう努めている		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーでは季節感を感じてもらえるような貼り絵を展示したり、廊下には行事の思い出の写真を掲示し楽しんで頂ける様に工夫をしています。	広い玄関ホールは日当たりが良く、利用者の憩いの場となっている。事務所を挟んだ2ユニット間の居間は、利用者も自由に往来でき、クリスマスツリーや手作り作品、行事の際の写真などを飾り、利用者が楽しめるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーも自由に行き来でき移動の制限なく自由に過ごして頂けます。また、ソファーに座わり、ひなたぼっこをしながら気の合う仲間と会話を楽しめる空間作りに努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にしている物、家族との写真や位牌など使い慣れた物を置き、本人が落ち着いて過ごせるようにしています。安心、安全に過ごせるよう、家具の配置・動線なども一人ひとりに合わせた環境・居室作りをしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がよく分かるように、入り口に名前の札と写真を掛け工夫をしています。また個々の状態に合わせた福祉用具を使用してもらい、自立している人にも手すりを利用するよう常に声掛け・見守りに努めています		